

2025年度 法科大学院

第2期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 必ず〔民事訴訟法〕の解答は〔民事訴訟法〕の解答用紙に、〔刑事訴訟法〕の解答は〔刑事訴訟法〕の解答用紙に、記入してください。また、必ず解答用紙の解答欄に一つずつ記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

1. 投資詐欺被害者の会を称するXは、虚偽の事実を述べてXの構成員から金銭をだまし取ったとして、Y社を被告とする損害賠償を求める訴えを提起した。その訴状には、Xの構成員が50人であり、Aがその代表者を務めていると記載されていたが、裁判所は、Xには代表者に関する定めがなく、民事訴訟法第29条の要件を欠くのではないかと疑念を抱いた。この場合、裁判所は、Yの申立てがないにもかかわらず、職権で代表者についての定めの有無の調査を開始できるか。
2. 上記1の場合において、裁判所は、Xの書記と称するBに対し、職権でXの代表者選任に関する規定の有無を照会し、仮にそれがあるときは当該規定と代表者選任の決議の手續を記載する書面の各写しを裁判所に送付するよう求めることができるか。

[刑事訴訟法]

H警察署の警察官Kは、Xに対する殺人罪の嫌疑が高まったことから、令和6年7月28日午後8時過ぎにX方に赴き、XにH警察署への任意同行を求めたところ、Xはこれに応じて、Kに同行してH警察署に出頭した。Kは、直ちに取調室においてXの取調べを開始した。Kは、午後11時を過ぎたころ、Xに対して、「遅くなったので、今夜は隣にあるAホテルに泊まったらどうか。空いているのはこちらで確認したから」と何度も言ったので、Xは、渋々これに従って、Kら2名の警察官とともにAホテルに行き、宿泊した。警察官らは、Xが宿泊した客室と一緒に宿泊することはなかったが、夜間もホテルの出入口付近に立ち、Xが外出しないか監視していた。なお、Aホテルの宿泊代はXが負担した。

翌29日朝はKらがAホテルまでXを迎えに来て、H警察署に同行した。同日は午前9時から午後10時までの間（途中、昼食、夕食時などに休憩はあり）、前日と同様に取調べを受け、夜はKらとともにAホテルに行き、宿泊した。なお、同日夜の警察官らによるXの監視状況は、前日28日と同様であった。

3日目である30日も同様の同行、取調べ、宿泊が行なわれた。また、4日目である31日も、同様の同行、取調べが行われた。

なお、28日から31日の間、Xが取調べや宿泊を拒否し、取調室あるいはAホテルから退去し帰宅することを申し出たり、そのような行動を取ることはなかった。警察官Kらが、取調べを強行し、Xの退去、帰宅を拒絶したり、制止したこともなかった。

Xは当初の取調べ以降、一貫して犯行を否認していたが、4日目の昼ころ犯行を自白したことから、その旨の供述録取書（自白調書）が作成され、Kは逮捕状の発付を得て、午後3時にXを逮捕した。この自白調書の証拠能力について説明しなさい。